

<あきたの中学生・高校生が 秋田の海ごみ問題を解決に導き あきたの海をきれいにする>

中高生がごみ拾い活動や清掃活動に参加できる場が少なく、海洋ごみをはじめとする環境問題解決に向けた行動を起こす機会がない。また、コロナ禍で修学旅行、校外学習、部活動が中止や縮小となり、学校生活の思い出となる活動が制限されていることから、県教育庁・各教育委員会・学校と連携してクラスメイトとごみ拾い「おもいでごみ拾い」を実施、現時点**60校9,589人**の生徒が参加した。海洋ごみ問題を学ぶ特別授業は中高で**7校計938人**の生徒が受講した。また、農業県秋田から農業生産におけるプラスチックごみの削減を目的に大曲農業高校と農家さんと連携して脱プラ農業を実践、秋田県種苗交換会で事例発表と啓発用チラシの配布、特番を制作放送する予定。中高生が参画したCFBコラボ商品開発ではババヘラアイスと男鹿海洋高校のさば缶を販売して海ごみゼロを発信。郷土愛醸成の観点から地域の観光を守るために角館中による観光地のごみ拾い「おもてなしごみ拾い」を実施した。2022年度のCFB全ての事業に秋田の中高生が参加して海洋ごみ問題について考えて、自ら行動する機会を創出した。**中高生の全事業の参加人数約12,000人**

2022年度 実施状況について

■ 中高生による清掃活動「おもいでごみ拾い」
 <課題・背景>
 中高生の海洋ごみ問題の関心が希薄。中高生の学校生の活動の制限、社会貢献活動に参画



・概要：県内の中高生によるごみ拾い
 ・目的：清掃活動に参加することで多くの中高生が海洋ごみ問題に関心をもち、普段の生活でごみを捨てない、ごみを拾う習慣を身に付けるなど、行動変容を促す。
 ・場所：学校近くの海岸、学校周辺の地域
 ・連携先：秋田県教育庁、各学校
 ・効果：県内の中学34校4,017人・高校39校5,572人、計73校9,589人が参加、年に複数回実施する学校や毎年の行事として取り組む学校が増加している。

■ 海洋ごみ問題と対策に関する特別授業
 <課題・背景>
 中高生が海洋ごみ問題や対策に関する基礎知識を学ぶ機会がない。そのため関心が薄い



・概要：県内の中高生を対象に県立大学の境准教授による海洋ごみ問題に関する特別授業
 ・目的：中高生が海洋ごみ問題や対策に関する基礎知識を身に付けて、問題意識を高める。自ら行動・発信するオピニオンリーダーを育成する。
 ・場所：県内各中学校・高校
 ・連携先：県内各中学校・高校
 ・効果：7校938人以上が受講、受講後の生徒の理解度5段階内4と5で88.2%、行動変容91.7%と一定の効果が認められた。学校側から次年度以降の実施をリクエストされる。

■ 角館さくらまつりの「おもてなしごみ拾い」
 <課題・背景>
 観光地のごみの散乱、地郷土愛育成、県内陸部から海洋ごみを削減



・概要：地元中学生による観光地のごみ拾い
 ・目的：ごみの無い美しい観光地で最大120万人の観光客をおもてなし。地域の大切な観光資源を守る清掃活動で、郷土愛育成を図る。
 ・場所：仙北市角館武家屋敷通り
 ・連携先：角館中学校
 ・効果：今回の事業がきっかけとなり角館中学校では生徒による観光地のおもてなしごみ拾いが毎年の行事となる。おもてなしごみ拾いが自走化した一例となった。

■ 農業から海ごみゼロ！「脱プラ農業の実践」
 <課題・背景>
 農業生産で使用するプラスチック資材が海洋ごみの一部に、農業資材が海ごみの発生源。



・概要：野菜栽培で使用するプラスチック資材とその代替えとなる植物由来の資材による比較実験、脱プラスチック被膜肥料を使用した稲作栽培
 ・目的：農業生産におけるプラスチックごみの削減、脱プラ農業の啓発
 ・場所：大仙市、大曲農業高校、仙北市
 ・連携先：大曲農業高校、雲雀農園
 ・効果：茄子栽培では代替え資材となる生分解性マルチの収穫量が1.7倍。生分解性、ジフィー、紙の省力化などの有用性を実証。硫黄被膜肥料のコメ作りで収穫量変化なし、次年度も継続。

その他：CFBコラボ商品開発①男鹿海洋高校のさば缶・わかめの佃煮、②瀧西中学校（閉校記念事業）のババヘラアイス梨味、スポGOMI甲子園秋田県大会の運営

メディア露出



5/8 (日) 8:55~9:00
 「海と日本プロジェクトin秋田県」
 サザエさんとコラボ発表



5/29 (日) 8:55~9:00
 「海と日本プロジェクトin秋田県」
 角館おもてなしごみ拾い



9/25 (日) 8:55~9:00
 「海と日本プロジェクトin秋田県」
 おもいでごみ拾い



10/23 (日) 8:55~9:00
 「海と日本プロジェクトin秋田県」
 スポGOMI甲子園秋田県大会

その他：大曲農業高校130周年記念 脱プラ農業30分特番放送（予定）、TV10本、TVCM300本、WEB40本、NHKニュース放送、秋田魁新報掲載

2022年度の課題とこれからの展望

県内の中学・高校の1万人がごみ拾いを中心としたCFB活動に参加、しかし裏を返せば残る半数以上は不参加で海洋ごみ問題にかかわる機会を失っている。中高生が海洋ごみ対策にかかわる機会を創出して、中高生の発信力と影響力で多くの県民を巻き込み「ごみを捨てない、ごみを拾う」習慣化を図る。中高生によるごみ拾い「おもいでごみ拾い」や「海洋ごみ問題を学ぶ特別授業」が学校教育の必須科目として自立自走し、中高生による海洋ごみ対策アクションが恒久的に続くためのプラットフォームをつくる。また、農業県秋田から全国に広がる脱プラ農業の普及促進を図る。